

日本語と中国語における〈深/浅〉の認知的対照研究

徐 蓮

(北京日本学研究中心大学院博士後期課程、お茶の水女子大学大学院研究生)

1. はじめに

〈深〉-〈浅〉は基本的な空間次元概念として、日本語においても中国語においても広く日常的に使われている。日本語の「深/浅」は中国語と同源同形であるが、意義構造で一致していないところが多い。まず次の用例を見てほしい^①。

- (1) 宇治の水は深い。(越前竹人形)
- (2) (邓久宽) 正在那硬板板的泛着白碱长着旺根草的地上划着浅沟。(金光大道)
- (3) この古酒には深い香りと味わいがある。(明鏡国語辞典)
- (4) 你刚才打的那个比方很好, 又浅显, 又明白。(金光大道)

例(1)の「深い」は水の表面から底までの距離が長いという空間的な意味を表す。例(2)の“浅”も空間的な意味を表すが、属性(“浅”)の主体が容器(“沟”)である点で、例(1)(属性の「深い」の主体が内容物「水」である)と異なる。例(3)では、「深い」はもはや空間ドメインを離脱し、「香りや味わいが強い」という意味になる。例(4)は難易度ドメインへ拡張し、“浅”は「易しい」という意味になる。例(2)-(4)はいずれも基本的意義からの派生的意義である。また、例(3)(4)は日本語か中国語の独特な使い方、〈深/浅〉の両言語での意義拡張が違うことが見られる。

それでは、大部分の言語に存在している〈深〉-〈浅〉概念がどの程度まで共通しているのか。また、どの部分が文化的条件が付けられているのか。本稿では、対照研究を通し、〈深/浅〉の意義ネットワークを明らかにするうえで、日本語と中国語における〈深/浅〉の意義上、または使用上の類似と相違を究明していきたいと思う。

本稿で扱う〈深/浅〉とは、「深」「浅」「深」「浅」の漢字を含めた表現、また〈深/浅〉の意義をもつ「ふか」「み」「しん」「あさ」「せん」などを含めた表現である。固有名詞(浅草、浅二郎、深圳など)は含まない。なお、同形語の紛れを避けるため、日本語の「深」「浅」を「」に、中国語の“深”“浅”を“ ”に入れることにする。同形語が同時に論じられる場合、〈 〉に入れることにする。

2. 先行研究と残された課題

日本語と中国語における〈深/浅〉についての研究は数少ない。森田良行(1977)と飛田良文・浅田秀子(1991)を代表とする伝統的な研究は多義語の意義記述に限られている。各意義項目の間の関連と意義の拡張プロセスが分からないままである。1980年代から、認知意味論による多義語の意義分析と解釈が盛んに行われるようになった。例えば、胡琳(2007)と任永军、滕向农(2001)、王红娟(2006)の「深い/浅い」「深/浅」についての研究がある。また、認知的な視点からは、〈深/浅〉という反対語の非対称現象研究(郝玲, 2006)や通時的考察(孔李茜, 2008)、対照研究(陈娜, 2008; 束定芳, 2009)なども見られるようになった。

しかし、〈深/浅〉をめぐる研究にはまだ大きな課題が残されている。まず、英日・中英対照研究より、同形同源の日本語と中国語の〈深/浅〉から認知的相違を見つけられれば興味深いことになるが、日中対照研究はまだ空白状態である。また、辞書の意義項目に基づいたこれまでの研究は言語の実態から外れる恐れがある。さらに、一步進んだ研究のために、コーパスに基づく使用状態への調査が必要となる。そこで、本稿では、辞書に相まって、「中日対訳コーパス」に基づいた見本調査と統計分析をする。

3. 〈深/浅〉の意義構造

3.1 中心義の認定

多義概念を研究するには、まず中心義を認定することである。中心義とは、共時的な多義ネットワークの中心に位置する意義であり、その出発点となる意義である。(瀬戸, 2007) 意義拡張の出発点を求めるには、〈深/浅〉の原義を辿り探さなければならない。

「深/浅」が中国語に語源を求めることから、“深/浅”の語源を考察した。その結果、“深”はそもそも川の名前であった。その川が湘水の支流で、現在は瀟水と呼ばれている。瀟水の源から江華県までの部分は現在でも“深水”と呼ばれている。^②したがって、“深”の原義は名詞であり、形容詞、副詞、動詞としての使い方はすべてこれを源とするという。しかし、北京大学中国語言語学研究中心の通時的コーパスに基づく考察によれば、この意義の“深”の例文が出ていない。そのことから、“深”の原義は広く使われていなかったことが分かる。当コーパスによれば、“深”の複数の意義項目の中で、水面から水底までの距離が長い/短いという意義は一番出典が早かった。西周時代にはもう広く使われていたという。

(5)俾予一人辑宁尔邦家，兹朕未知获戾于上下，栗栗危惧，若将隕于深渊。(今文尚书)

(6)匏有苦叶，济有深涉。(诗经)

川の名称からその属性(深いこと)への拡張は隣接性に基づくものであるから、メトニミーによるものである。一方、“浅”は“深”と違い、この拡張がないと思われる。《说文解字》によれば、“浅，不深也。(浅は深くないという意味である)”つまり、“浅”の原義は水面から水底までの距離が短いことを指し、そもそも“深”の反対語として作られたと思われる。“浅”の原義は西周時代から広く使われてきた。

(7)深则厉，浅则揭。(诗经)

(8)就其深矣，方之舟之；就其浅矣，泳之游之。(诗经)

日本語と中国語の権威辞書^③で考察した結果、“深/浅”の複数の意義項目の中で、水面から水底までの距離が長い/短いという意義は他の意義を理解する上での前提となり、具体性が高く、認知されやすく(すぐに理解できる)、想起されやすく(まっさきに思い浮かぶ)、意義展開の起点(接点)となることが最も多い(他の意義はこの意義のメタファーあるいはメトニミーである)。また幼児の言語習得に関する村井(1970)の研究によれば、この意義が他の意義より習得が早い。中心義となる基準を最も数多く備えていることから、典型的な中心義と見なせる。^④

3.2 認知意味論による意義記述

今まで、〈深/浅〉の意義記述には辞書が大きな役割を果たしてきた。日本語と中国語の権威辞書を参考に、〈深/浅〉の各意義項目を次のようにまとめる。^⑤

表1 〈深/浅〉の意義項目

意義項目	日本語		中国語	
	「深」	「浅」	“深”	“浅”
①水面から水底までの距離が長い/短い	深い海	浅瀬	深渊	水浅
②上下の距離が長い/短い	深い谷	浅い皿	深耕	根浅
③境界から奥までの距離が長い/短い	傷跡が深い	椅子に浅く腰を下ろす	深山	前厅进深很浅
④互いに独立している実物が密集している/まばらである	毛深い足	—	深林	—
⑤色が濃い/薄い	深い緑色	浅い緑色	深红	浅蓝
⑥暗い/明るい	深い陰	—	树荫深浓	—
⑦匂い・香りが強い/ほのかである	深い香り	浅からざる香り	—	—
⑧味が強い/薄い	味が深い	浅い味	—	—
⑨事の始まりから時がかなりたっている/時があまりたっていない	深夜	春はまだ浅い	深秋	年代浅
⑩顕著/微弱	興味深い	罪は浅い	印象深刻	资历浅
⑪難しい/易しい	—	—	艰深	浅显
⑫本質に達する/表面的な領域にとどまっている	深い意味	知識が浅い	深刻认识	浅尝辄止
⑬密接である/疎遠である	深い仲	親交が浅い	交情深	关系浅薄
⑭内心的な/公開的な	深く隠れる	—	心灵深处	—
⑮音声が低い/高い	深い声	—	声音深沉	—
⑯たくさん注意を払う/あまり注意を払わない	深く注意する	—	深信	—
⑰感情が強い/薄い	深い感動	—	深情	—

3.3 意義拡張の分析

多義現象は人間の認知手段（メタファー、メトニミー、シネクドキーなど）を通し、ある語義の基本義から派生義へ拡張する過程で、人間の認知をカテゴリー化または概念化した結果である。一般的にいえば、意義拡張は具体的なドメインから抽象的なドメインへという規則を守っている。吉村(2004)によれば、意義拡張はおよそ空間→時間→状態(変化)→心理という順で進んでいくという。吉村の理論に基づき、〈深/浅〉の各意義項目を再整理してみる。

表2 〈深/浅〉の意義構造

I [空間]	
1. [距離] 巨視的空間	
(1) [水の距離] 水面から水底までの距離が長い/短い……………	①
(2) [上下距離] 上下の距離が長い/短い……………	②
(3) [内外距離] 境界から奥までの距離が長い/短い……………	③
2. [密度] 微視的空間	
(1) [密度] 互いに独立している物が密集している/まばらである……………	④
(2) [感覚] 感覚上の密度	
A [視覚] 濃淡と明暗など視覚で感じられる密度	
a [色調] 色が濃い/薄い……………	⑤
b [光度] 暗い/明るい……………	⑥
B [臭覚] 匂い・香りが強い/ほのかである……………	⑦
C [味覚] 味が強い/薄い……………	⑧
II [時間] 事の始まりから時がかなりたっている/時があまりたっていない……………	
III [状態]	
1. [顕著度] 顕著/微弱……………	⑩
2. [難度] 難しい/易しい……………	⑪
3. [本質度] 本質に達する/表面的な領域にとどまっている……………	⑫
4. [関連度] 密接である/疎遠である……………	⑬
5. [公開度] 内心的な/公開的な……………	⑭
IV [心理]	
1. [感覚]	
(1) [視覚]	
A [色調] 色が濃い/薄い……………	⑤
B [光度] 暗い/明るい……………	⑥
(2) [臭覚] 匂い・香りが強い/ほのかである……………	⑦
(3) [味覚] 味が強い/薄い……………	⑧
(4) [聴覚] 音声が低い/高い……………	⑮
2. [思考強度] たくさん注意を払う/あまり注意を払わない……………	⑯
3. [感情強度] 感情が強い/薄い……………	⑰

〈深/浅〉の意義拡張は、身体的にとらえやすい空間把握から、次第に抽象的・理知的な領域に進行する。空間・時間・状態・心理といった幅広いドメインに拡張している。

3.3.1 空間ドメイン

(一) 上下の距離

水の表面から底までの距離を表す〈深/浅〉がメトニミーを通し、垂直方向上の距離を表すようになる。上下の距離が長いことは〈深〉であり、短いことは〈浅〉である。例えば、

- (9) 穴は、深く、暗かった。(砂の女)

(10) 你有劲儿，用锹在轱辘前挖，挖深点儿。（金光大道）

(11) 底の浅い鉄鍋に水を汲みこんでから火を焚きつけると、僕は倉庫の奥の籾殻の中へ腕を突っこんで馬鈴薯を盗む。（飼育）

(12) 乔奶奶是个开通人，格格笑着，深一脚，浅一脚地走了。（丹凤眼）

例文では、穴、鍋、ないし足の移動する上下の距離は〈深/浅〉で表す。中心義の「水面から水底までの距離が長い/短い」がそもそも水(内容物)自体の属性を表すが、内容物一容器という隣接性に基づき、容器の属性(上下の距離が長い/短い)を表すようになる。この拡張はメトニミーによるもので、物理的な経験に基盤がある。原始人は日常生活に深く関わる川や湖や海から、最初の〈深/浅〉概念を得ている。水の深さは必ず容器の深さに関わるので、同じ表現で水の入っている河床や穴などの容器の属性を表すようになるわけである。

(二) 内外の距離

上下ドメインの認知枠がさらに内外ドメインに写像され、境界から奥までの距離が長いことは〈深〉であり、短いことは〈浅〉であるという意味が生じる。例えば、

(13) 丑松は深い溜息を吐いていた。（破戒）

(14) 许宁微笑着，打量着妈妈脸上更加深了的皱纹和鬓边的白发说：“妈妈，你比过去苍老了！”（青春之歌）

(15) レイテ西海岸の平野は浅く、我々は海岸と四軒メートルと離れていなかった。（野火）

(16) 维娜脸上又露出了浅浅的酒窝。（轮椅上的梦）

例文では、人間の体や平野は容器に見なされ、この容器の口からの距離が長いことは〈深〉である。原始人の身近な洞窟は水平であるが、河床と穴と同じところがある。中に入るにつれて、暗くなり、危険になる。同じ感じを与える関連性から、意義の拡張が生じるわけである。

(三) 実物の密度

密度は物と物の間の距離を表すので、微視的な空間関係とみなすことができる。水の上下の距離を表す〈深〉がメタファーを通し、密度ドメインに拡張する。密度が高いことは〈深〉である。例えば、

(17) 朝じめりのした街道の土を踏んで、深い霧の中を辿って行った時は、遠近に鶏の鳴き交す声も聞える。（破戒）

(18) 看着这个宁静的深林，雨后格外清新。（<http://www.wenxuewu.com/files/article/html/118/118360/4660666.html>）

例文では、〈深〉は木や霧の水の玉の密度を表す。密集している物と物の間の距離が短く、上の分析と逆になるようであるが、実は意義拡張のプロセスが違うからである。川に深く潜ると暗くなる。人間はこの経験からまず意義⑥に拡張している。〈深〉は影や陰などの暗さを表すようになる。例えば、

(19) 僕は弟の肩を押しつけながら杏の老木が深ぶかとおとす影のなかを走り、兎口の腕のなかの犬を覗きこみに行った。（飼育）

(20) 梧桐，梧桐科梧桐属。落叶乔木，树荫深浓，主干端直，树皮光滑，灰绿色。（http://www.cngreen.net.cn/flower/ZSYD_Detail.asp?ID=253）

また、木の密集している所も暗いので、この暗さを通し、意義①と意義④が関連付けるようになる。ここから、密接は〈深〉であるスキーマが生じる。

(四) 感覚上の密度

密度は五感によって感じられる。顔料の分子は密度が高くなると、色が濃くなる。香り

や味の分子の密度が高くなると、香りや味が濃くなる。これらの拡張は水の深いところが浅いところより色が濃い経験や、花や食べ物に密接すると、香りや味が強くなる経験によるものである。例えば、

- (21) 玉枝は舟板に手をつかえ、紫いろの深まってゆく川面がせり上ってくるのをみつめたまま気を失った。(越前竹人形)
- (22) 我上下打量他一回，看见他的裤脚接了一截，颜色比原来的深。(插队的故事)
- (23) 医者は四十年輩の、浅黒い顔にロイド眼鏡をかけたやせた男である。(越前竹人形)
- (24) 这时，一辆浅灰色的“一三〇”小卡车开了过来。(人到中年)
- (25) この古酒には深い香りと味わいがある。(明鏡国語辞典)
- (26) この古酒には浅からざる香りと味わいがある。(明鏡国語辞典)

意義⑤が意義①から、意義⑦⑧が意義④から拡張されている。プロセスが異なっているが、同じくメタファーによるものである。

3.3.2 時間ドメイン

空間を表す〈深/浅〉が容器のメタファーを通し、時間ドメインに写像される。事の始まりから時がかなりたっていることは〈深〉であり、時があまりたっていないことは〈浅〉である。例えば、

- (27) 冬が深まるにつれて彼女の目は前にも増して透明に感じられるようになった。(ノルウェイの森)
- (28) 可是，现在，在这黑暗的深夜里只有她一个人。(青春之歌)
- (29) しかし、わが国の場合、欧米諸国にくらべて自動車普及しはじめてからまだ日も浅く、モータリゼーションが一足飛びにきただけに、道路の整備が追いつかないという状態がつづいている。(日本列島改造論)
- (30) 其余部分，也已“日薄西山，气息奄奄，人命危浅，朝不虑夕”，快进博物馆了。(毛泽东选集第二卷)

時間は抽象物で直接に五感で感知できないので、よく空間概念によって表される。例えば、時間を方向のある線と見なせば、上・下・前・後があり、“上午”“下次”“午前”“その後”などの表現が生じる。意義⑨は意義③から拡張していると思われる。事の始まりの時間点を空間的な境界と見なし、時間がたつにつれ容器の奥へ行く。例文では、夜、春夏秋冬などの季節、自動車が普及しはじめてからの時間帯、人間の生存期間は容器に見なし、その容器に入る距離が長いことは〈深〉であり、短いことは〈浅〉である。

3.3.3 状態ドメイン

〈深/浅〉は中心義から、メタファーを通し、状態ドメインに写像されていく。物事の顕著度、難度、本質度、関連度と公開度を表す。

(一) 顕著度

川が深ければ水の量が多く目立つという経験から、多いこと、また著しいことは〈深〉であり、少ないこと、微弱なことは〈浅〉である。例えば、

- (31) 江藤は自分の罪のふかさを感じていた。(青春の蹉跎)
- (32) 在国际和国内的种种矛盾也会随之加深。(我的父亲邓小平)
- (33) 现实感は浅く稀薄であり、欲望は別の軌道を駆けめぐっていた。(金閣寺)
- (34) 虽然那时父亲还小，但我想那种革命的气焰一定在他幼小的心灵里留下了不浅的印象。(我的父亲邓小平)

罪、矛盾、現実感、印象などの抽象物は実在空間を表す〈深/浅〉を通して理解され、

また表される。

(二) 難度

川に潜る場合、深ければ深いほど難しくなる経験から、“深”が難しいことに関わるようになる。この連想に基づき、メタファーの写像が生じ、“深/浅”で難しさを表すようになる。例えば、

(35)上次从你这里借去的读本，我还觉得深了一点呢！（霜叶红似二月花）

(36)你刚才打的那个比方很好，又浅显，又明白。（金光大道）

例文では、難しいことは〈深〉であり、易しいことは〈浅〉である。

(三) 本質度

本質度は物事が本質に達するかどうかを測るもので、本質に達することは〈深〉であり、表面的な領域に留まっていて、本質に達していないことは〈浅〉である。例えば、

(37)丑松は復たそこへ倒れて、深い睡眠に陥入った。（破戒）

(38)从心理学角度上看，是不是有那么一种人——他们未必有多么深刻的道德品质上的原因，而仅仅是出于一种无法排遣的羞涩。（钟鼓楼）

(39)元来、日本經濟の基礎が浅く、金と外貨の準備が十分でなく、輸出も思うようには伸びない。（激動の百年史）

(40)薛永全的这种认识，听起来是肤浅的，然而却是稳定而坚实的。（钟鼓楼）

人間は川の水を隔て、底に何があるか分からない。そして、川に深く潜ると、河床の真の姿が見えるようになる。この経験は認知プロセスという抽象概念を捉えるのに用いられる。真の姿、つまり本質に近づくことを〈深〉で、まだ本質に達していなく、表面的に留まっていることを〈浅〉で表す。

(四) 関連度

上述のように、意義①から意義④への拡張プロセスで、密接は〈深〉で、まばらは〈浅〉であるスキーマが生じる。意義④から〈深/浅〉で物事の繋がり状態を表す意義③が生まれる。例えば、

(41)スキイに行った先の宿で深い関係になってからは、それが一層はげしかった。（青春の蹉跎）

(42)到了掌灯以后，客人陆续的散去，只有十几位住得近的和交情深的还打麻将来。（骆驼祥子）

(43)リッチと李蕢の交友関係は浅からざる。（マッテオ・リッチ伝）

(44)尊敬是表面的，关系是浅薄的。（金光大道）

例文では、男女や友人関係が密接であることを〈深〉で、疎遠であることを〈浅〉で表す。親しければ自然に物理的な距離も短くなり、密接になる（密度が高くなる）ことにこのメタファーの認知基盤がある。

(五) 公開度

川へ深く行けば行くほど未知のものが多くなる経験に基づき、空間を表す〈深/浅〉は物事の公開度ドメインに写像され、人に知られていない内心的なものは〈深〉である。例えば、

(45)万事深く蔵んでいるような丑松に比べると、親切は反って文平の方にあるかと思わせる位。（破戒）

(46)说到最后，赵微土笑起来了，不知道他是玩笑，还是用表面的玩笑掩盖更深层的激动。（活动变人形）

例文では、心は容器と見なされ、内心的なものは〈深〉で表される。

3.3.4 心理ドメイン

最も抽象的なドメイン——心理ドメインはまた感覚、思考、感情と三つの下位ドメインに分けられている。

(一) 感覚

視覚・臭覚・味覚などの感覚は空間ドメインの密度が心理ドメインへの写像として捉えられるので、この二つのドメインに跨っていると思われる。聴覚ドメインでは、低い音声は〈深〉で表す。例えば、

(47)喉を引き下げて、深い声を出すには、息を吐くときの体と喉の使い方にコツがあります。(http://love.ap.teacup.com/basso777/979.html)

(48)在几秒钟的动员机筹备工作之后，这台 12 缸的动员机爆发出了深沉的声音。(http://wangmfdwp.blog.163.com/blog/static/12678442320098133582857/)

意義⑤は意義③に基づいて拡張してきた。人間が声を出す場合、発声部が深ければ深いほど、つまり境界である口からの距離が長ければ長いほど、声が低い。この経験から、機械などが音を出す場合も、音が低いことを〈深〉で表すようになる。

(二) 思考強度

空間を表す〈深〉は思考ドメインに写像され、脳の働きが激しいこと、たくさん注意を払うことは〈深〉である。例えば、

(49)大貫さんは用心深いからね。(あした来る人)

(50)可是这一封信不比寻常，一定要经过深思熟虑。(人啊，人)

用心、注意、思考、意識などは容器に見なされ、脳の働きが激しければ〈深〉で表す。川に潜ることは筋肉の働きに関わり、深いほうへ行けば、筋肉の働きが激しくなる。この経験から脳の働きを捉える場合、脳の働きの激しさは〈深〉で表すようになる。

(三) 感情強度

思考ドメインへの拡張と連想が同じく、〈深〉は感情ドメインに写像される。感情が強いことは〈深〉である。例えば、

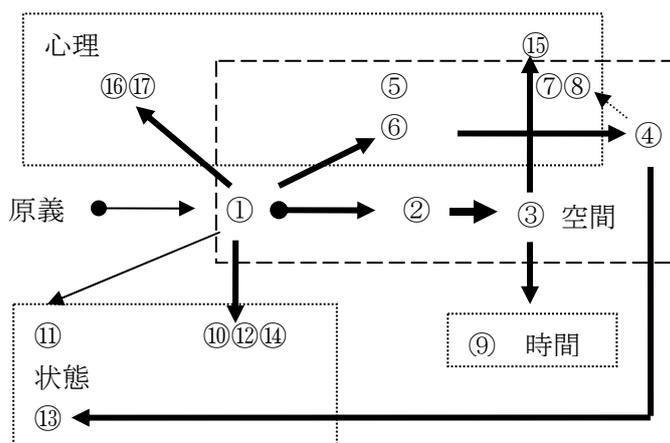
(51)自分がいま一人の男性を、それが正しいかどうか知らないが、この世の他の何者よりも深く烈しく愛していることを感じていた。(あした来る人)

(52)我悄悄地注视着它，一动也不敢动，深怕惊飞了这可爱的小小舞蹈家。(轮椅上的梦)

3.4 意義ネットワークの構築

上述のように、〈深/浅〉は中心義からメタファーとメトニミーを通し、いろいろなドメインに写像され、多くの意義へ拡張していく。その意義構造を図で表すと次の通りである。太い矢印は日本語と中国語の共通している拡張を表し、細い矢印は独自の拡張を表す。そのうち、中国語の独自の拡張は実線の細い矢印で、日本語は点線の細い矢印で表す。また、メトニミーによる拡張は矢印の端に黒い丸が付いている。

図1 〈深〉の意義ネットワーク



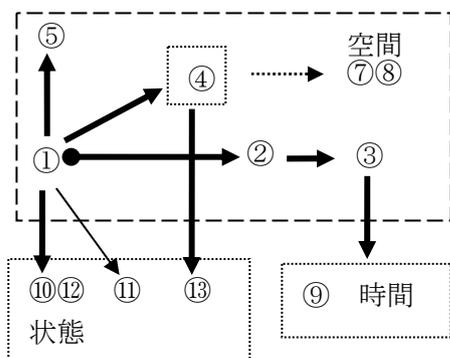
まず、拡張手段について、〈深〉は主にメタファーによって拡張している。原義から中心義①への拡張と①から②への拡張だけがメトニミーによる。

次に、目標ドメインについて、〈深〉は空間ドメインから、時間ドメイン、状態ドメインと心理ドメインの三つのドメインへ拡張している。

次に、拡張プロセスについて、〈深〉は原義からメトニミーを通し、意義①へ拡張する。そして、意義①を中心義として、意義②、⑤、⑥、⑪（中国語のみ）、⑩、⑫、⑭、⑯、⑰へ拡張する。それから、意義②が③へ拡張している。③からさらに⑨と⑮が派生される。また、⑥から④へ、④から⑦⑧（日本語のみ）と⑬へと拡張が次々と進んでいる。

最後に、「深」と“深”の共通点と相違点について述べる。「深」は“深”と大体同じプロセスによって拡張しているが、「深」には④から⑦⑧へ、“深”には①から⑪への拡張がある点で異なっている。

図2 〈浅〉の意義ネットワーク



〈浅〉の拡張手段は〈深〉と同じ、主にメタファーによって拡張しているが、意義①から②へだけがメトニミーによる拡張である。

目標ドメインについて、心理ドメインへの拡張がない点で大きく〈深〉と異なる。つまり、〈浅〉は空間ドメインから、時間ドメイン、状態ドメインの二つのドメインへしか拡張していない。

拡張プロセスも〈深〉と大分違う。意義①は原義でもあり、中心義でもある。それを中心に②、⑤、⑩、⑪（中国語のみ）、⑫へ拡張していく。意義④は〈浅〉の意義項目に出していないが、密接していることは〈深〉であり、まばらなことは〈浅〉であるというスキーマが生じたことは事実であろう。言い換えれば、〈浅〉の意義④は顕在していないが、〈深〉の影響で人間の認知システムに潜在している。その潜在の意義④から⑦⑧⑬が派生したわけである。②はさらに③を派生し、③はまた⑨へ拡張している。

最後に、「浅」と“浅”の共通点と相違点について述べる。両者の拡張プロセスは大体同じであるが、〈深〉と同じく、「浅」には④から⑦⑧へ、“浅”には①から⑩への拡張がある点で異なっている。

しかし、図で示している〈深/浅〉の各意義項目の実際言語での使用率は決して均衡しているわけではない。言いかえれば、拡張度がそろっていない。たくさん使われている意義もあるし、そこまで拡張していてもあまり使われていない意義もある。したがって、コーパスに基づき、〈深/浅〉の意義構造をさらに掘り込む必要がある。

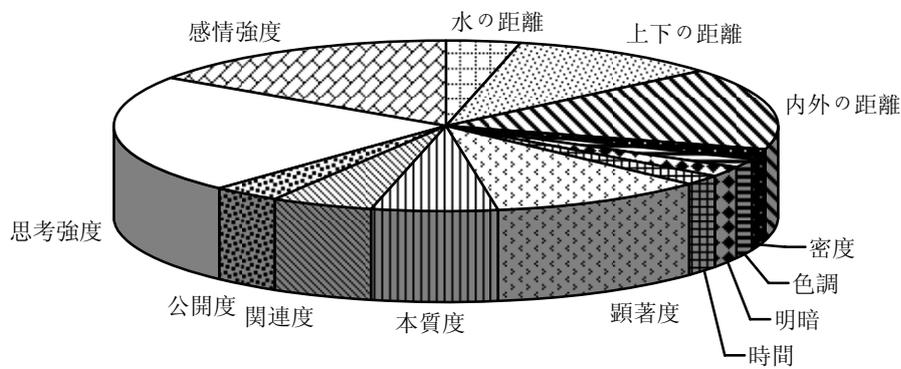
4. 〈深/浅〉の拡張度の日中対照研究

拡張度とはある意義項目が全意義項目に占めている比率ことである。〈深/浅〉の意義構造をもっと精密的に考察しようと、コーパスに基づき、〈深/浅〉の各意義項目の使用率を考察した。中日対訳コーパスの原文で「深」「浅」「深」「浅」「ふか」「あさ」「しん」「み」「せん」を含めた例文を全部抽出し、固有名詞の浅草、浅二郎、深川などを排除した結果、「深」の例文を1494例、「浅」826例、“深”146例、“浅”86例を入手した。「深」「浅」の例文から200例ずつランダム抽出を行い、「深」200例、「浅」200例、“深”146例、“浅”86例のコーパスを築き、統計分析を行う。〈深/浅〉の意義項目の分布は次の通りである。

表3 〈深/浅〉の意義項目の分布

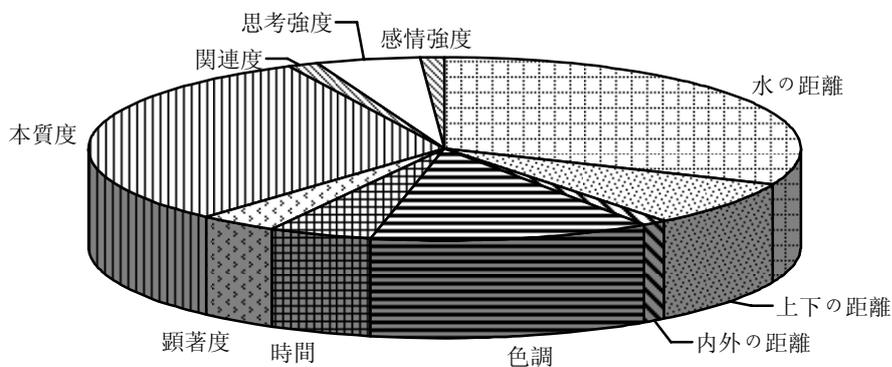
ドメイン	意義	日本語				中国語			
		深		浅		深		浅	
		例数(例)	比率(%)	例数(例)	比率(%)	例数(例)	比率(%)	例数(例)	比率(%)
空間	①[水の距離]	7	3.5	27	31.4	4	2	16	11
	②[上下距離]	21	10.5	7	8.1	14	7	13	8.9
	③[内外距離]	31	15.5	1	1.2	28	14	11	7.5
	④[密度]	4	2	0	0	2	1	0	0
	⑤[色調]	3	1.5	11	12.8	12	6	41	28.1
	⑥[光度]	4	2	0	0	0	0	0	0
	⑦[臭覚]	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑧[味覚]	0	0	0	0	0	0	0	0
時間	⑨[時間]	4	2	4	4.7	16	8	1	0.7
状態	⑩[顕著度]	21	10.5	3	3.5	21	10.5	18	12.3
	⑪[難度]	0	0	0	0	3	1.5	12	8.2
	⑫[本質度]	12	6	31	36	40	20	31	21.2
	⑬[関連度]	10	5	1	1.2	0	0	3	2.1
	⑭[公開度]	7	3.5	0	0	13	6.5	0	0
心理	⑮[聴覚]	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑯[思考強度]	45	22.5	0	0	10	5	0	0
	⑰[感情強度]	31	15.5	0	0	37	18.5	0	0
総計		200	100	86	100.1	200	100	146	100

図 3 「深」の各意義項目の分布図



■ 水の距離	■ 上下の距離	■ 内外の距離	■ 密度	■ 色調	■ 明暗	■ 時間
■ 顕著度	■ 本質度	■ 関連度	■ 公開度	■ 思考強度	■ 感情強度	

図 4 「浅」の各意義項目の分布図



■ 水の距離	■ 上下の距離	■ 内外の距離	■ 色調	■ 時間	■ 顕著度	■ 本質度	■ 関連度	■ 思考強度	■ 感情強度
--------	---------	---------	------	------	-------	-------	-------	--------	--------

図 5 “深”の各意義項目の分布図

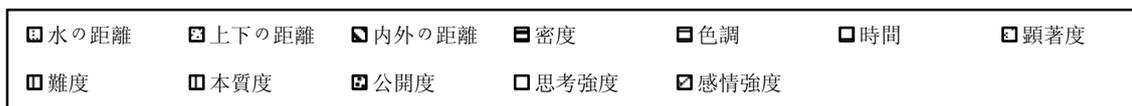
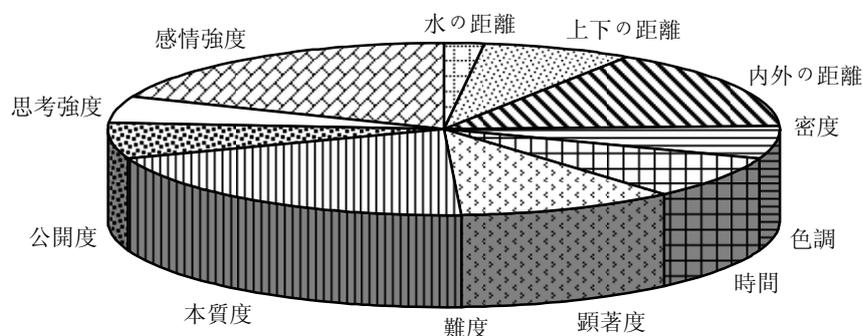
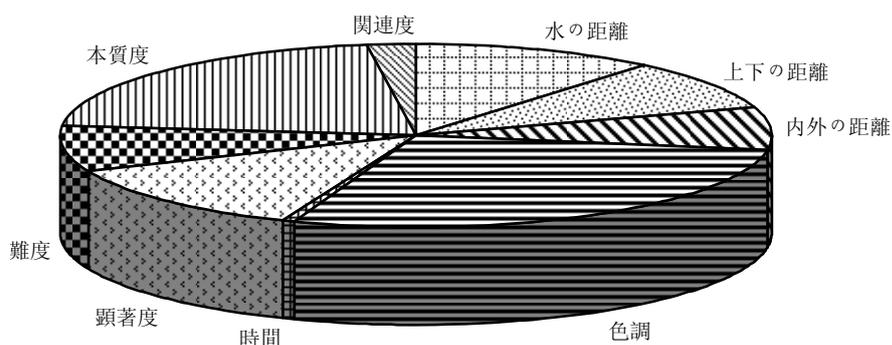


図 6 “浅”の各意義項目の分布図



〈深/浅〉意義項目の分布考察の結論：

(一) 〈深〉と〈浅〉の分布について、日本語でも中国語でも〈深〉の意義項目の分布は〈浅〉より広い。〈浅〉より〈深〉の拡張度が高いことが分かる。

(二) 〈深〉について、両言語の〈深〉は臭覚、味覚、聴覚ドメインへの拡張が観察さ

れていなく、「深」はさらに難度、「深」は密度、明暗、関連度ドメインへの拡張が観察されていない。

(三) 〈浅〉について、両言語の〈浅〉は密度、光度、臭覚、味覚、公開度、聴覚、思考、感情ドメインへ拡張していない点で一致している。「浅」は難度ドメインへの拡張がない点は異なっている。

(四) 日本語について、「深/浅」は臭覚、味覚、難度、聴覚ドメインへの拡張例がゼロである。「浅」はさらに、密度、光度、公開度ドメインへの拡張が観察されていない。

(五) 中国語について、「深/浅」は密度、光度、臭覚、味覚、聴覚ドメインへの拡張例がゼロである。「深」はさらに関連度ドメインへ、「浅」は公開度、思考と感情ドメインへの拡張が観察されていない。

(六) 辞書考察とコーパス考察の結果において、両考察の拡張の有無についての結果の中で一致しているものは66.7%である。「深/浅」が臭覚、味覚ドメインへ、「深」が聴覚ドメインへ、「深」が密度、光度、関連度、聴覚ドメインへの拡張は、辞書に載っているが、実際の使用率が非常に低いことが分かる。これらの拡張は拡張度が非常に低く、いわゆる典型度のより弱い意義である。

(七) 〈深〉と〈浅〉の拡張度について、各意義項目を分布率で順に並べてみると、次のとおりである。

順位	日本語		中国語	
	「深」	「浅」	“深”	“浅”
1	思考強度	本質度	本質度	色調
2	感情強度/内外距離	水の距離	感情強度	本質度
3		色調	顕著度	顕著度
5	顕著度/上下距離	上下距離	時間	水の距離
6		時間	上下距離	上下距離
7	本質度	顕著度	公開度	難度
8	関連度	内外距離/関連度	色調	内外距離
9	水の距離/公開度		思考強度	関連度
10			水の距離	時間
11	光度/時間/密度		難度	
12			密度	
13				
14	色調			

言語の間でも、〈深〉と〈浅〉の間でも、分布率のずれが著しい。分布率の順序から分かるように、〈深〉は状態や心理など抽象度の高い意義として使うことが多いが、〈浅〉はまだ主に具象的な意義として使われている。拡張の起点である中心義[水の距離]と最も抽象度の高い[感情強度]の分布率と順位を例にとってみよう。

意義	「深」	“深”	「浅」	“浅”
①[水の距離]	3.5% (第8位)	2% (第9位)	31.4% (第2位)	11% (第4位)
⑰[感情強度]	15.5% (第2位)	18.5% (第2位)	0 (最下位)	0 (最下位)

〈深〉の拡張の方が〈浅〉よりはるかに進んでいることが分かる。

(八) 日本語と中国語の〈深/浅〉における拡張度について、日本語と中国語の〈深/浅〉の拡張度は次の通りである。

日本語		中国語	
「深」	「浅」	“深”	“浅”
96.5%	68.6%	98%	89%

つまり、“深”が「深」より高く、“浅”が「浅」より高い。〈深/浅〉において、中国語の拡張度は日本語より上回っていると言える。

(九)両言語に併存している意義項目の拡張度について、[色調]、[時間]、[本質度]、[公開度]の意義項目では、“深”の拡張度は「深」よりはるかに上回っている。さらに、[内外の距離]、[色調]、[顕著度]の意義項目では、“浅”の拡張度は「浅」よりはるかに上回っている。[思考強度]の意義項目では、「深」の拡張度は“深”より、[時間]の意義項目では、「浅」の拡張度は“浅”よりはるかに高い。両言語における〈深/浅〉の各意義項目の拡張度が揃っていないことは明らかである。

5. まとめ

以上、辞書とコーパスに基づき、日本語と中国語における〈深/浅〉の意義構造と拡張度を認知意味論的な視点から考察した。〈深/浅〉の意義ネットワークを明らかにしたうえで、日本語と中国語における〈深/浅〉の意義上、または使用上の類似点と相違点を示した。ここで示した考察結果と方法は、多義語の研究あるいは辞書の編集の一助となれば誠に幸いである。

本稿では、主に〈深/浅〉をめぐる、日本語と中国語を対照とした。〈深〉-〈浅〉は典型的な反対概念で、対称していると思われるが、以上の考察によると、非対称現象がしばしば見られ、その非対称は意義、使用頻度、文構成など多岐に渡っている。日本語と中国語において、〈深〉-〈浅〉の非対称はどんな共通点と相違点があるか、その背後にどんな認知的規則があるのか、という課題に関する考察は他日に期したい。

注釈

- ①文中の例文はごく一部のインターネットと辞典による例文を除き、すべてコーパスによるものであり、具体的な出典が（ ）にある。インターネットによる例文の検索日は2009年12月3日である。
- ②古代中国語の権威辞書である《说文解字》《康熙字典》と現代中国語の権威辞書《新华字典》では、“深”の原義を川の名称と捉えている。《说文解字》では、“深，深水。出桂阳南平，西入营道。（深は深水であり、桂阳の南平から西へ营道に流れる。）”《康熙字典》では、“深，水名。（深は川の名称である。）”
- ③本稿で参考する日本語と中国語の権威辞書
 - 1) 新村出 編. 広辞苑（第五版）[Z]. 東京：岩波書店, 1998
 - 2) 日本大辞典刊行会 編集. 日本国語大辞典[Z]. 東京：小学館, 1972
 - 3) 松村明 編. 大辞林（第二版）[Z]. 東京：三省堂, 1995
 - 4) 辞海编辑委员会 編. 辞海（1999年版）[Z]. 上海：上海辞书出版社, 1999
 - 5) 广东、广西、湖南、河南辞源修订组, 商务印书馆编辑部 編. 辞源（修订本）[Z]. 北京：商务印书馆, 1979-1984
 - 6) 汉语大词典编辑委员会, 汉语大词典编纂处 编纂. 汉语大词典（第一版）[Z]. 上海：上海辞书出版社, 1986

- ④瀬戸（2007）によれば、中心義を認定するには、主に八つの基準がある。a ほかの意義を理解する上での前提となる。b 具体性(身体性)が高い。c 認知されやすい。d 想起されやすい。e 用法上の制約を受けにくい。f 意義展開の起点(接点)となることが最も多い。g おそらく言語習得の早い段階で獲得される。h 頻度は高いことが多いが、必ずしももっとも頻度が高い意義と一致するわけではない。e と h を除き、上記の特徴の大部分を備えるため、典型的な中心義と見なせる。
- ⑤古代言語の意義項目は含まれていない。

参考文献

1. 瀬戸賢一.メタファーと多義語の記述[A].楠見孝.メタファー研究の最前線[C]. 東京：ひつじ書房,2007
2. 飛田良文・浅田秀子.現代形容詞用法辞典[Z].東京：東京堂出版,1991.
3. 村井潤一.言語機能の形成と発達：乳幼児の音声,言語活動の比較発達の研究[M].東京：風間書房,1970
4. 森田良行.基礎日本語辞典[Z].東京：角川書店. 1989
5. 吉村公宏.はじめての認知言語学[M].東京：研究社,2004
6. 陈娜.基于语料库的“deep”和“shen（深）”的认知对比研究[D].上海外国语大学硕士论文,2008.
7. 郝玲.谈反义词“深/浅”的不对称现象及解释[J].现代语文,2006(5).PP20-22
8. 胡琳.«深い」「浅い」的认知语义研究[D].解放军外国语学院硕士论文,2007.
9. 孔李茜.多义范畴“深”“浅”及其在对外汉语教材中的编排策略[D].上海师范大学硕士学位论文,2008.
10. 任永军, 滕向农.空间维度词“深、浅”的认知语义分析[J].柳州师专学报,2001(4).PP23-26
11. 束定芳.英语“deep”与汉语“深”的概念化对比 [R].第六届中国认知语言学研讨会大会报告, 2009.
12. 王红娟.空间维度词“深”“浅”的认知诠释[J].科技信息,2006(11),P159